

建築統制の爲
 時節柄見合せる
 管理困難の爲
 業務の都合に依り
 家事の都合により
 別に理由なし
 その他
 不詳

〇・二一
 二・九五
 一・五六
 一・〇四
 三・九七
 六・四九
 〇・二一
 五・五八

一九三九年ソ聯邦の國勢調査

ソ聯邦國家計畫委員會國民經濟中央統計局が政府の決定により一九三九年一月十七日現在を以て施行せる全聯邦國勢調査(極北部の數區を除く)の結果は之を既往一九二六年十二月十七日現在の調査結果と對比して社會主義下の人口動態の研究資料として興味深いものであるが、その主要數字を示せば以下の如く、十二年間の人口増加大約二千三百五十萬、一五・九%年平均一・二三%、約七百萬に及ぶ女子人口の超過(一九二六年には女子四百九十萬の超過)、都市人口の總數に對する比率の壓倒的發展等注目し値ひする種々の事實を見せてゐる。(外務省調査部稿「ソ聯邦人口調査資料(一)」参照)

一九三九年男女別人口

(茲に一九二六年=一〇〇とする指數)

年	男	女	計
一九三九年一月十七日現在	八、六四九、八一八	八、〇三〇、五七一	一七、〇八〇、三三六
一九二六年二月十七日現在	七、〇四三、三三三	七、五九四、五五三	一四、六三七、八八六

一九二六年=一〇〇とする指數
 一五〇
 一六九
 一五九

都市及農村別人口

(括弧内は全人口に對する百分比)

年	都市人口	農村人口
一九三九年一月十七日現在	五、九〇九、〇八六(34.6%)	二、四五七、七六八(14.3%)
一九二六年二月十七日現在	二、三三四、二四二(16.9%)	三、〇七三、〇二二(21.2%)

主要都市人口(番號は人口數順位)

都市名	一九三九年	一九二六年
(1) モスクワ	四、三七〇、一八	二、〇三九
(2) レニングラード	三、九一七、四〇〇	一、八八八
(3) キエフ	八、四六、二九三	一、六四八
(4) ハリコフ	八、三三三、三三	一、九七七
(5) バクー	八、〇九三、四七	一、六五五
(6) ゴリキー	六、四四一、二六	二、八九七
(7) オデッサ	六、〇四三、三三	一、四三六
(30) イルクーツク	二、四三三、八〇	三、三三一
(37) ウラヂウオストツク	二、〇六四、三三	一、九三三
(40) ハバロフスク	一九九、三六四	三、六三一
(49) ニコラエフ	一七六、一〇八	一、五九三
(80) チタ	一〇三、五五五	一、五六七
(120) コムソモリスク	七〇、四六六	—
(155) ブラゴエーシチェンスク	五八、七六一	—

尚、右一九三九年國勢調査結果に關し同年六月二日プラウダ紙所載エヌ・ウオズネセンスキーの所説の大意を掲ぐれば次の如くである。

本調査は現在人口と現住人口との兩方に互つて行はれたが、現住人口數の現在人口數に對する差違が僅かに〇・〇六%に過ぎないことは其の統計的正確さを物語るに足るものである。

一九二六年末より一九三九年初頭に互るソ聯邦の増加速度一五・九%は、同期間の歐洲諸國、米國及び日本の人口増加速度一〇・四%に對し一倍半の數値を示してゐる。

その理由はこの間ソ聯邦は強大工業國となり兼ねて又社會主義的大農業國となつたからで、一九三八年の國民所得(一〇五〇億留)は一九二六年の四・八倍に増大してをり、この間に於ける國民の社會的構成上の變化も亦著しい。ソヴェト社會が尙ほ社會主義的社會となるに到らなかつたと考へられる一九二八年の社會的構成を一九三七年の其れと對照すると次の如くで、

勞働者及勤務者	一九二八年	一九三七年
コルホーズ農民(組合化する手工業者を含む)	一七三%	三四・七%
自作農民及組合化する手工業者	二・九	五五・三
資本主義的分子(ネツプマン及富農)	七二・七	五・六
其他の住民(學生、軍人、年金生活者)	四・五	—
尚、この間の總人口の増加比率は一六%、國民所得に於ては三八〇%の増である。	二・四	四・二

また一九三八年ソ聯邦の工業總生産高(一〇六〇億留)は一九二六年の六・七倍であり、金屬加工工業は(一九三九年三二四・六億留)は同期間中二・七倍に増大してゐる。都市人口の増加(一九二六年一七・九%、一九三九年三二・八%)は之に基くもので、工業、建設、

運輸及び其の他の經濟部門に對し農村人口の組織的吸収が行はれ、一九二六―三九年間の向都人口は千八百五十萬に及ぶ。然しこの間に於ける都市人口自身の自然増加も大きく十二年間に五百三十萬に達し、その増加度は革命前に對比して特に著しい。

死亡數に對する出生數の比率

モスクワ	一九一三年	一九三八年
レニングラード	一二四%	一六九%
ハリコフ	一三一%	二一七%
ミンスク	一六五%	二五二%

(伯林は一〇七%、倫敦は一一〇%、共に一九三六年)

併し都市人口の著増には五箇年計畫中に従前の農村が大工業中心地となり、都市に編入せられた事實も與つて力あり、之に該當する現都市人口は九百八十萬に及ぶが、一九二六年調査の都市人口中には公に農村に數へられてゐた地域の居住者四百萬人を包含してゐるので實數は差し引き五百八十萬となる。

之に伴ひ農村人口比率の減少は已むを得ないが、併し昔て十八・九世紀に於ける資本主義的工業化が農村の貧困と都市の慢性的失業群を齎らせるに反し、ソ聯邦の農村人口都市吸収は農業の社會主義的改造を基礎として行はれた。最近十二年間農村人口の若干減少にも拘らず商品穀類の生産高は三・七倍に増大してゐる。

なほ三九年六月二日のプラウダ紙上にソ聯邦國家計畫委員會國民經濟調査局長イー・サウチンはソ聯邦都

市の出生率は諸外國のそれを遙かに抜いてゐることを次の如き數字を掲げて報告してゐる。

ソ聯邦 年次 人口千に付

モスクワ	一九三八年	二八・五
レニングラード	〃	二七・四
キエフ	〃	二七・四
ハリコフ	〃	二七・七
バクー	〃	三三・九
諸外國		
伯林	一九三六年	一四・一
倫敦	〃	一三・六
巴里	〃	一一・五
紐育	〃	一三・五

又、三九年六月二日イズヴェスチヤ紙所載のエリ、アブラモフ所説の數字によると、ソ聯邦に於ける都市増加の狀勢は次の如くである。

人口五萬以上 の都市數	一八九七年	一九二四年	一九三六年	一九三八年
上の都市數	三九	七一	八五	一七四
人口十萬以上 の都市數	一四	二一	三一	八二

また人口五萬及び十萬以上の都市數の各國別比較は次の如くである。

	人口五萬以上 の都市數	人口十萬以上 の都市數
ソ聯邦	一九三六年 一七四	一九三六年 三一
北米	一九一一年 一九一	一九三九年 八二
合衆國	一九二八年 一八〇	一九三九年 九四
英國	一九〇五年 五一	一九三九年 五八
獨逸	一九〇三年 四五	一九三九年 五七

伊太利 六一 六六 一八 二二
佛蘭西 五一 五六 一七 一七
尚、ソ聯邦は十二年間に都市人口を倍加したが、都市人口の倍加には米國は三十年、獨逸は四十年、佛蘭西及び英國は七十年を要したものが指摘されてゐる。

民族衛生研究會研究會の開催

昭和十五年九月九日午後四時半より厚生省第三會議室に於て、厚生省豫防局内民族衛生研究會は研究會を開催し、優生人口政策要綱案を審議した。原案は第一出生獎勵政策、第二死亡減少政策、第三農村生活確保政策及第四優生人口思想の普及徹底に關する政策の四部門に分れ多數の項目に分たれてゐる。研究會側よりは幹事高野六郎醫學博士、床次徳二氏、鈴木菊男氏、青木延春醫學博士、大橋政雄氏外數氏の出席あり、來會者は關係各方面の専門家六十氏の多きに達し、福田邦三醫學博士、鹽谷不二雄醫學博士、川上理一醫學博士、渡邊定醫學博士、木下正一醫學博士、吉岡彌生氏、館総氏外多數の權威より極めて重要な意見の開陳があり多大の効果を修めて午後六時散會した。